

2024 年度事業報告の件

I. 本部報告事項

1. 活動の概要

2024 年度の事業活動は会員企業における生産活動が正常化する中、計画した事業と行事を完了することができた。しかし、その状況下でも日本のばね産業を取り巻く事業環境は大きく変貌している。

会員企業の経営課題の 1 つである価格転嫁は、会員企業の 90%以上が従業員 300 人以下の中小企業・小規模事業者で構成されていることもあり、ばね業界として客先と協議できる環境が不可欠である。当工業会では急騰する原材料費やエネルギー費、労務費等を価格転嫁できる事業環境を整備するとともに、政府・関係省庁へ意見具申と提言を 2024 年度も継続実施し、持続可能で安定した企業経営の実現に貢献している。

一方、保護主義の台頭による国際間取引の見直し、特に追加関税に関しては、国際貿易の円滑化を図るための従来の枠組みである WTO（世界貿易機関）と TBT（貿易の技術的障害に関する協定）が機能しない状況になっている。追加関税は日本の製造業、特に国内で生産する自動車の競争力低下、国内雇用やサプライチェーンへの深刻な影響を与える懸念が唐突に生じる状況となって、2024 年度の期末を迎えている。

2024 年 4 月現在、当工業会は正会員 202 社、賛助会員 35 社で構成されており、会員企業で日本のばね産業の生産金額の 90%を製造している。政府・関係省庁と関連業界との協働にて、喫緊の課題に対処していかなければならない。

経済産業省の生産動態統計調査において、国内の 2024 年の金属製ばね生産は表 1～2 に示す生産金額と生産数量となった。2024 年上期のばね生産は国内自動車生産の停滞の影響を大きく受けた結果であり、業界として CSR への取り組みの重要性を再認識したところである。下期はばね製品への価格転嫁が進む中、ばね市場が低迷している可能性を示唆しており、例年と異なればね生産増減の要因を特定・推測することが難しくなっている。この状況からも日本のばね産業が新たな局面に入っていると判断できる。

表 3 に国内の自動車生産台数、表 4 に国内からの輸出台数と対米比率を参考までに示した。追加関税は自動車や自動車部品の輸出入に大きな影響がある中、国内企業が対応できる時間と対策も限られており、今後の状況と動向に注視していかなければならない。

ばねの主要顧客である自動車産業は大きな変革期を迎えており、保護主義の下での国際間取引ではコロナ禍で再構築されたサプライチェーンの見直しと多様化が進められている。新たな地政学リスクはばね業界の変革と経営強化、「レジリエンス」と「共創」を求めている。

国際間取引のルール変更、特に追加関税はばねの主要顧客である自動車産業に大きな影響を与える。対米関税の影響で自動車輸出 137 万台（輸出比率 32.5%）が減少すると、国内生産が縮小し、関連する雇用が失われる可能性がある。また、部品供給体制の再構築が必要となり、生産効率が大きく低下するリスクもある。

当工業会は1948年に設立し、2012年に一般社団法人化した。創立80周年に向けて、日本ばね工業会（Japan Spring Manufacturers Association）の事業活動を会員企業とばね産業界に周知徹底する目的として、「J」「S」「M」「A」をキーワードとして、付加価値を深化させる取り組みを展開・開始した。

①【J: Join（参加する）】

＜ばね産業界全体の連携＞：

会員企業、政府・関係省庁と各都道府県、関連業界団体との連携を強化する。

＜国際連携の構築＞

海外ばね工業会との連携を強化して、グローバルな視点での成長・発展を牽引する。

②【S: Sustain(持続する)】

＜持続可能な運営＞

地球温暖化対策、環境負荷低減など持続可能な運営を推進し、社会に貢献する。

＜組織の健全化＞

安定した財務基盤を確保し、会員企業の経営に資するサービスを提供する。

③【M: Motivate(動機付ける)】

＜技術革新の促進＞

新しい技術開発や製品開発を促進し、会員企業と業界の技術力向上を支援する。

＜人材育成と活性化＞

次世代を担う人材育成とキャリアアップを支援し、会員企業の活性化を図る。

④【A: Advance(進歩する)】

＜ばね産業界の底上げ＞

技術水準の向上、品質管理の強化など、工業会と業界全体のレベルアップを実現する。

＜DX推進＞

AI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術を活用し、業務効率化と生産性向上を図る。

この4つのキーワードが示唆するJSMAのミッションとビジョンは工業会の活動指針を簡潔かつ的確に反映している。今後も事業運営（組織力）の強化、情報発信力の強化を通して、デジタル新時代（IoT、AI活用）を見据えた成長戦略と価値創出の実現を推進していく。

日本ばね工業会の主要な事業活動は、「人と人との繋がり」を重視し、直接対話を中心とした活動を実施してきた。一方、IT・デジタル活用したWeb開催、対面とWebを併用したハイブリッド形式の開催は、デジタル化が事業活動の遂行と活性化に繋がることを示唆し、新たなイノベーションを創出するポテンシャルも示している。

その中で、今後もばね産業の持続的な成長を実現させるべく、2024年度の当工業会の運営においては、委員会活動（総務委員会/技術委員会/標準化会議/技能検定委員会）と支部活動（東部/中部/西部）を強化して、次の3主要事業を推進するとともに、情報発信と事業環境の急激な変化に対応してきた。

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) 標準化事業 | ばねに関する規格・基準の制定と普及 |
| (2) 技能検定事業 | 金属ばね製造技能士の育成、および資格認定試験の受託・実施 |
| (3) 統計事業 | ばねの生産動向、市場規模・動向の把握 |

日本のばね産業は革新的な材料や技術を通じて、世界の製造業に新たな価値を提供し、その成長を支えてきた。今後も更なるばねの技術革新と付加価値の創造によって、国内外の製造業の成長を

牽引していくとともに、持続可能な社会の構築に貢献していく。

表1: 金属製ばね 生産金額 (2024年)

2023年	金属製ばね 生産金額 (百万円)	2024年	金属製ばね 生産金額 (百万円)	対前年比
1月	23,477	1月	22,407	95.44%
2月	26,758	2月	24,537	91.70%
3月	30,548	3月	26,702	87.41%
4月	27,977	4月	26,050	93.11%
5月	24,230	5月	25,151	103.80%
6月	28,102	6月	26,680	94.94%
7月	28,733	7月	29,432	102.43%
8月	22,834	8月	22,508	98.57%
9月	26,916	9月	28,283	105.08%
10月	27,954	10月	29,368	105.06%
11月	27,867	11月	27,894	100.10%
12月	25,794	12月	26,352	102.16%
合計	321,190	合計	315,364	98.19%

表2: 金属製ばね 生産数量 (2024年)

2023年	金属製ばね 生産数量 (Ton)	2024年	金属製ばね 生産数量 (Ton)	対前年比
1月	27,508	1月	30,539	111.02%
2月	32,746	2月	31,903	97.43%
3月	36,815	3月	32,850	89.23%
4月	33,343	4月	33,690	101.04%
5月	29,100	5月	33,230	114.19%
6月	35,345	6月	34,423	97.39%
7月	35,818	7月	38,118	106.42%
8月	30,905	8月	28,504	92.23%
9月	35,780	9月	33,607	93.93%
10月	38,437	10月	38,507	100.18%
11月	37,936	11月	35,196	92.78%
12月	34,868	12月	33,151	95.08%
合計	408,601	合計	403,719	98.81%

表3: 日本国内の自動車生産台数 (2024年)

2023年	国内自動車 生産台数	2024年	国内自動車 生産台数	対前年比
1月	620,476	1月	578,120	93.17%
2月	738,634	2月	616,763	83.50%
3月	866,260	3月	710,389	82.01%
4月	711,460	4月	646,438	90.86%
5月	623,435	5月	651,285	104.47%
6月	763,374	6月	691,286	90.56%
7月	778,052	7月	804,080	103.35%
8月	639,383	8月	540,881	84.59%
9月	840,648	9月	761,695	90.61%
10月	818,358	10月	816,836	99.81%
11月	857,001	11月	738,897	86.22%
12月	741,457	12月	678,009	91.44%
合計	8,998,538	合計	8,234,679	91.51%

表4: 四輪車輸出台数と対米比率

年	輸出台数	アメリカ	対米比率
2014	4,465,624	1,537,676	34.4%
2015	4,578,078	1,604,446	35.0%
2016	4,634,033	1,735,480	37.5%
2017	4,705,848	1,736,765	36.9%
2018	4,817,470	1,731,025	35.9%
2019	4,818,132	1,726,139	35.8%
2020	3,740,832	1,384,998	37.0%
2021	3,818,910	1,331,718	34.9%
2022	3,813,239	1,283,934	33.7%
2023	4,422,682	1,485,641	33.6%
2024	4,217,004	1,369,063	32.5%

2. 社員総会の開催

名 称	開催日・場所	議 案
第13回 社員総会	2024年5月28日 新横浜プリンスホテル	決議事項 第1号議案 2023年度 事業報告の件 第2号議案 2023年度 収支決算の件 第3号議案 任期満了による役員（理事・監事）選任の件 第4号議案 その他 報告事項 1. 2024年度事業計画の件 2. 2024年度団体賛助会員年会費及び収支予算の件

3. 会長表彰（2023 年度表彰）

社員総会、支部年次大会において次のとおり会長表彰を受けた。

（１）国家褒章	該当なし		
（２）本部及び支部役員表彰	東部支部 理事	永峯道男	株式会社パイオラックス
	中部支部 理事	吉田 修	知多鋼業株式会社
（３）本部委員会委員表彰	総務委員会	小倉潤司	三菱製鋼株式会社
	標準化会議	佐治泰宏	中央発條株式会社
（４）優良ばね製造技能者	プラチナ賞	8 社	15 名
	金 賞	13 社	22 名
	銀 賞	13 社	42 名
（５）優良従業員表彰	東部支部	13 社	46 名
	中部支部	12 社	32 名
	西部支部	17 社	32 名

4. 理事会の開催

理事会は 5 回開催された。

開催日・場所	議 案（主な内容）
第 61 回理事会 2024 年 5 月 8 日 書面開催（決議）	審議事項 1. 2023 度 事業報告の件 2. 2023 度 収支決算の件 3. 任期満了に伴う役員（理事・監事）選任候補者の件 4. 第 13 回定時社員総会の件 5. 2023 年度 会長表彰受賞者の件 6. 委員会委員改選の件 報告事項 1. その他（会員異動等）
第 62 回理事会 2024 年 5 月 28 日 新横浜プリンスホテル	審議事項 1. 会長（代表理事）、副会長・専務理事（業務執行理事）の選定について
第 63 回理事会 2024 年 9 月 4 日 ホテルプラザオーサカ	報告事項 1. 支部活動報告 2. 委員会活動報告 3. その他（会員異動等） 審議事項 1. ホームページ改修費用の件 2. 本部及び東部支部 事務所移転費用の件

第 64 回理事会 2024 年 12 月 4 日 ホテルルブラ王山	報告事項 1. 支部活動報告 2. 委員会活動報告 3. その他（会員異動等） 審議事項 1. 会員入会の件 2. 委員会委員一部変更の件 3. 第 14 回定時社員総会及び定例理事会日程等の件
第 65 回理事会 2025 年 3 月 26 日 日本工業倶楽部会館	審議事項 1. 会員入会の件 2. J S M A 規格一部改定の件 3. 規程一部廃止の件（会員慶弔金・見舞金規程） 4. 登記変更の件 5. 委員会委員一部変更の件 6. 2025 年度 事業計画・予算の件 7. 2024 年度 会長表彰受賞者の件 8. 第 14 回社員総会の開催と招集の件 報告事項 1. 2024 年度 事業報告の件 2. その他（会員異動等）

5. 監事による監査等

監事は、監事監査等を次のとおり実施した。

2023 年度事業報告及び収支決算書については 2024 年 4 月 25 日にその内容を監査した。

6. 会員の異動（2024 年度）

(1) 会員の入会	中部支部	株式会社マルダイスプリング
	西部支部	株式会社中央スプリング製作所
退会	中部支部	株式会社知多スプリング
		東和工業株式会社
	西部支部	クマトロン精工株式会社
		株式会社丸一発條製作所
		ハシダ技研工業株式会社 日田工場
		幸田スプリング製作所

(2) 期末会員数

	支部別	2024 年 3 月末	2024 年度増減	2025 年 4 月
正会員	東部支部	73	±0	73
	中部支部	53	－1	52
	西部支部	79	－3	76
	合 計	205	－4	201
賛助会員		35	±0	(*) 35

*団体会員（支部協賛会）含む

以 上